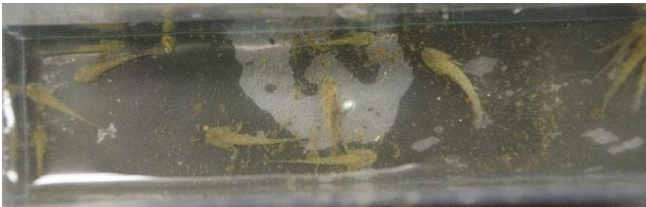


1 「セトウチサンショウウオ」 西口龍平

「先生、道場裏の溝でみつけました。」2023年4月27日の放課後、見学に来た新生で賑わう生物室で、声を掛けられた。振り返ると、いつも真っ先に網をもって校舎周辺に飛び出していく小林聡一郎君であった。彼は三度の飯よりも両生類爬虫類が大好きな中学3年生で、得意げにバケツを差し出してきた。バケツ中に目をやると2cm程のオタマジャクシ状の生物が動いていた。「おお、すごいな。ひさしぶりやな。写真撮るわ。」と声をかけていると、早速、プラケースを持ってきて中身を移し、撮影準備を整えた。プラケースの中では、セトウチサンショウウオの幼生達が隠れ場所を探して、あっちに行ったり、こっちに行ったりしていた。



道場裏のセトウチサンショウウオ幼生 2023年4月27日

みんな喉元には鰓があり、中にはまだ後ろ足が生えていない個体もいた。彼曰く「撮影が終わったら、観察用に4匹だけ飼育してもいいですか。後は元の溝に戻してきます…」

ここは、高砂市北部の高御位山に連なる丘陵地にある地徳山の麓にある白陵中学高等学校。

グラ

ンドの周辺には田んぼが広がり、校門の南には、参勤交代の行列が往来した旧山陽道が豆崎村沿いに東西に走る。裏山の一つ大平山に登り、西に目をやると姫路城が、東に目をやると明石海峡大橋が、南を向いて淡路島の西岸沿いに目をやると大鳴門橋が見える。体育館横の谷筋は「馬が谷」と呼ばれ、湧水が豊かで、かつて山陽道を行き来した人々はこの水を「馬が谷水」と呼び、馬の給水場として利用していた。

古老によると、この冷たい水は夏の農作業の休憩時には格別な味だったとのこと。



テニスコートの横の溝の卵塊 1991年3月17日

三日月型の寒天質に包まれた卵塊を敷地内で初めて確認したのは1991年3月17日で、図鑑にはカスミサンショウウオと書かれていた。場所は校舎西の畑横の溝の中で水深は10cm程であった。当時は今と比べると湿った場所が多く、他にもテニスコート横の溝や三角公園の池やグラウンド横の溝や道場裏の溝などでも卵塊を確認することができた。その後、敷地内では畑のあった場所にテニスコートが増設されるなど施設整備に伴う水場の減少や、気温上昇による乾燥化のためか、卵塊の確認場所は年々減少し、5年程前には見られなくなっていた。そのような状況の中で、今年の春、冒頭で述べた通り久しぶりに道場裏の溝で幼生の生息を確認することができた。2024年の春にも昨年続き道場裏の溝のみではあるが幼生を確認することができた。

参勤交代の時代から絶えることなく細々と湧き続けている「馬が谷水」は、敷地内に残された数少ないセトウチサンショウウオの繁殖場所となっている。

(西口龍平)

2 「エゾリンドウ」 菅村定昌

昔の図鑑には、氷ノ山以北に生育すると書かれていました。鳥取県の最新のレッドリストには大山で確認されたと書かれており、分布限界ではなくなりましたが、近畿地方では唯一の個体群です。

昔の古生沼には花束ができそうなほど多く咲き、少し離れた登山道の脇にも生育していたと聞きます。それがどんどんと生育数を減らし、特にニホンジカ（以下シカ）が侵入してからは急激に個体数を減らしました。事態を憂慮された南但馬の自然を考える会の皆様が兵庫森林管理署、兵庫県、養父市の協力のもとに 2002 年に植生保護柵を設置されました。この柵は但馬で最も古い植生保護柵で、積雪前に網を下し、融雪後に網を上げる管理が毎年されています。多くの希少な植物たちは回復に向かいましたが、エゾリンドウは減少を続けました。

2017 年 9 月には食害を受けた小さな 5 株しか確認できず 3 つの金網で囲いました。3 株に各 1 個のつぼみがありましたが開花しませんでした。

2018 年には食害を生き残った 15 株が確認でき、そのうちの 7 株を囲いました。シカだけでなくウサギの食害を受けていることも分かりました。3 株に各 1 個のつぼみがありました。開花しましたが種子はできませんでした。

2019 年には 5 株が開花し、種子を散布することができました。種子採取の許可を得たのが遅く、種子の回収はできませんでした。

2020 年は、植生保護柵、個別の柵ともに大きく破損しており、7 月の保護柵再建時には、ほとんどの株がかじられており、開花できるか微妙な大きさになっていました。開花確認はできていません。

2021 年は、7 月に新たに 4 つの個別柵を新設して 7 つの柵ができました。湿地内の全株を囲いましたが、新たに囲った部分の 6 株は大きさなどから種子からの芽生えと思われます。8 月に湿地全体を探索し、新たに 26 株の芽生えを発見し、25 株を囲いました。柵内の 16 株に 26 個のつぼみがついていました。9 月末に受粉が終わった花に種子採収用の袋をかけました。11 月 8 日に種子の回収を行いました。種子は兵庫県立人と自然の博物館、姫路市立手柄山温室植物園などに送りました。

2022 年には 10 個の柵内に 50 株ほどが育ち、20 株が開花しました。

2023 年、芽生えから育った株が大きく育って花が咲き、種子を散布しました。

2024 年、丁寧に調べていませんが芽生え由来と思われる株を 79 確認しました。おそらく 100 株以上が育っていると思います。また、古千本湿地にも植生保護柵を再建し、作業中に小さなエゾリンドウを 3 株確認しました。

植生保護柵の管理を丁寧に行えばエゾリンドウは順調に増加すると思います。

